

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400393		
法人名	株式会社 育川		
事業所名	グループホーム北陽(1階 北山ユニット)		
所在地	島根県出雲市武志町755-2		
自己評価作成日	平成31年1月11日	評価結果市町村受理日	平成31年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ワイエム
所在地	島根県出雲市今市町650
訪問調査日	平成31年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○リビングから四季折々の北山の景色を眺め、木のぬくもりある空間を基調とした施設です。毎月ご家族宛に利用者様の普段の様子が分かる写真と共に近況をお知らせする手紙を送っています。</p> <p>○今年度は地域小学校との交流に力を入れ教職員、高学年生徒を対象に認知症サポーター研修を実施しました。</p> <p>○ご家族との繋がりを大切にし可能な限り一緒に外出したり一時帰宅できるような支援を行っています。</p> <p>○家事や庭の手入れ等々、利用者様のできる事、やっていた事を大切に支援しています。</p> <p>○今年度は初めて看取りを行いました。職員それぞれが看取り介護を実践していく中で利用者様が終末期をどのように送りたいか考え、家族様と一緒にその方が最期まで安心して生活して頂けるようカンファレンスを繰り返しながら支援をしました。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>電車の近くで大学、高校、小学校、幼稚園、病院、温泉、住宅街など郊外の豊かな環境の中にあり、それらの機関や人々との交流をもちながら「家庭的な雰囲気・人としての尊厳が守られる・その人らしい人生・特色ある地域環境を活かした豊かな生活と交流」などの理念を掲げて発足した2ユニットのホームは7年目となり、管理者、職員がチームワークよく、利用者さん方に優しく接しながら質の高いケアを実践している。市内の他事業所との交流も盛んで、アイデアや取り組みを参考にしながら、事業所のレベルアップも図っている。木造のホームでは、窓から街の喧騒が感じられるホールで利用者さん方が体操やおしゃべり、趣味などそれぞれにくつろいでいて、穏やかな表情で暮らしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を意識した取組みが行えるように理念を玄関やスタッフルームに掲示している。	「家庭的な雰囲気・人としての尊厳・その人らしい人生・特色ある地域環境を活かした豊かな日常生活・地域との交流」などの理念に常に立ち返り、職員は日々のケアを見直すことで質の高い介護支援を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入っておらず地域との繋がりにはまだまだ課題がある。地域の理容店を利用しており馴染みの関係になっている。近隣の保育園との交流は継続しており園児さんの訪問は利用者様の楽しみになっている。	ホームは市の郊外にあり、電车站の周辺に大学、高校を始め教育機関や公園、医療機関、温泉などの保養施設もあり、それらの機関を利用したり、学生や子どもたちとの交流も積極的に行っている。住宅街が続いており日常的に散歩やお出かけをしている。また、小学生の認知症サポーターの育成も行った。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学校の教職員、高学年生徒さんを対象に認知症サポーター研修を行った。今後は小学校のみならず多くの地域の方に向けて行えるよう努めていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では入居状況や活動報告、意見交換、また避難訓練の様子を見学していただきそこでの貴重な意見を課題としてサービスの向上につなげている。季節行事に参加していただき利用者様との交流を図っている。	運営推進会議の参加者からは活発な意見やアイデアが出されている。電车站の職員や駐在所の警官にも会議に出席してもらうことで、利用者さんの見守りを地域ぐるみで行ってはどうかという意見があったということだが今後の取組を期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に1度、入退所者情報を市に報告している。事故等があれば速やかに市に報告書を提出している。分からない事があれば相談している。	市の担当者とは、顔の見える関係であり、ホームの運営について様々な相談に乗ってもらう。生活保護受給者の経済的な問題や、福祉用具の利用方法等についても相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1階と2階をつなぐ引き戸には転落防止の為に施錠をおこなっている。必要性については毎月のユニット会議で話し合い検討をおこなっている。また運営推進会議の場でも議題に上げている。	利用者さん方は、自由に振る舞っていて、戸外にも見守られながら出かけることができ、身体拘束は全く見られない。転倒予防や外出に伴う危険などについては見守り体制を日々話し合い実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外の研修に参加し、職員間で見過ごされる事がないように注意を払っている。委員会を設置し不適切なケアが行われていないか話し合い不適切と思われるケアについては全体会議の場で職員へ周知するよう努めている。必要に応じてご家族を交えて話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員へ人権・権利擁護の研修参加を促している。今後も研修や勉強会で制度を学ぶ機会を増やし、権利擁護に関する制度の理解を深めていけるよう努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービス利用開始前後もご家族の不安が軽減されるよう心がけている。ご家族の疑問には納得できるよう丁寧に説明をおこなっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ヶ月に一度、市からの相談員を受け入れており利用者様の思いや要望を聞き取って頂いている。聞き取りの内容は職員にも周知し運営に反映させるよう努めている。面会時には利用者様の状況を伝えご家族の意見も聞くよう努めている。	家族からは、職員が優しく、話しやすい雰囲気であるとの声が多い。面会の際には、普段の様子や健康面医療面の報告をしたり、介護計画の話し合いをする中で、家族の思いや意見を聞き取るようにしていると言う。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議、リーダー会議、全体会議を開き職員の意見や提案に対して話し合いをおこなっている。個人面談で管理者との話し合いの機会を設けている。	職員体制が十分な中で、会議やミーティングも頻繁に開催されており、職員は意見やアイデアを表現しやすい。管理者は元々職員でもあったので、皆の思いを十分理解している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	委員会活動などで職員1人1人に役割があり向上心をもって働けるような環境作りに努めている。また代表者は職員との面談の機会を設け職員の意見を聞き取り職場環境の改善に努めている。資格取得に向けての支援をおこなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	委員会活動として社内勉強会をおこなっている。また毎月、他施設と合同で研修会をおこない介護技術と知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の行事やカフェに利用者様と参加し交流や意見交換をおこなっている。他施設の取り組みを勉強しサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で本人に会い、心身の状態、生活状況等を把握するよう努めている。本人が困っていることや心配なことを本人、ご家族等より情報を集め、入居時には安心していただけるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で本人、ご家族の思いに向き合いながら聞き取りを行い、困っていることや不安なことが少しでも軽減できるに対応し、家族との信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談で生活歴や身体状況を情報収集し、本人やご家族のニーズや心配事を聞いたうえで必要と思われるサービスがあれば提案や助言をおこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いに共感し個々の能力に合わせ日常生活の中でできる事はしていただき、役割をつくる機会を提供している。食事へのこだわりがある利用者様には希望に添えるよう一緒に食事を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報共有を持つ為に毎月近況報告の手紙を送っている。また面会時にも普段の様子を伝えたり、ご家族に協力できることはお願いし、ご家族と職員が共に支え合う関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常生活のなかで、ご家族や知り合いとの繋がりを大切にする為に面会の際は話しやすい環境づくりを心がけている。またご家族に協力してもらい一時帰宅の機会をつくるよう努めている。	利用者さんの中には、ホームが実家ですというぐらい馴染んでいる方もいるが、入居後間がない方や認知症のため、家や住み慣れた地域へ帰りたい方もいて、帰宅やお墓参りなどの希望を出来るだけ叶えるような取り組みをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活のなかで、利用者同士の関係性を把握し、お互いが認め合って生活できるように努めている。孤立しがちな利用者様には職員が声をかけ皆と過ごせるよう配慮したり、一緒にテーブルでお茶をのんだりし、その人なりの特性を把握し考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もお見舞いに行ったり、ご家族の相談にも応じるよう努めている。また退所後もご家族から年賀状や手紙を頂き今までの関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりのなかで本人の思いや希望、困っていることを聞き、記録に残し毎月のカンファレンスで検討するようにしている。本人主体の生活が送れるよう支援している。	利用者さんはみな、会話が多く、ホールでも笑い声も響いている。リラックスした雰囲気の中で、思い思いの言葉が聞かれており、職員はそれらに耳を傾けて丁寧に接している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にできる限り、生活歴や嗜好、生活環境等の情報を収集し把握に努めている。日々の会話の中からも情報を集め職員で共有し馴染みの生活が継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムや心身の状態を記録に残し職員で共有できるように取り組んでいる。特に心身状態の変化については朝礼時に情報伝達し他ユニットであっても情報を共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向や希望を把握し、本人のできる事を介護計画に反映できるように計画作成担当者は本人、ご家族、職員と話し合いながら取り組んでいる。	介護計画はベテランのケアマネジャーが中心になって、利用者さん、家族、職員が話し合っ作成されており、それをもとに日々の介護業務としての個別ケアマニュアルが作られ、毎月利用者さんの生活について話し合い、変化などあれば改善変更を行なう。大きな変化などあれば介護計画も書き直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子や会話の内容、ケアの実践内容をケース記録に残したり、健康状態や排泄状況を記録することにより、利用者の生活状況等を把握し共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	近隣の薬局と協力体制をとっており毎月、医療会議を開き利用者の身体状況の把握と共有に努めている。ご家族が受診対応できない時は職員が付き添いし柔軟な対応を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣保育園の協力のもと、園児との積極的な交流を図っている。また県立大学の学生ボランティアの受入れをし行事等に参加していただき交流の機会を作っている。地域の小学生は避難訓練の様子を見学している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月、往診に来て頂き状態に変化があれば早急にかかりつけ医に報告・連絡・相談をおこないながら医療との連携を密にしている。総合医療センターと連携しており夜間や休日の緊急受診に対応できるよう努めている。	内科、整形外科、歯科、総合病院など協力医療機関がある。定期的に往診などもあり、家族さんは安心できる。また、検査その他などには職員が同行して受診して、家族にも報告するなど細やかな対応がなされ健康管理に気をつけている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間、看護師と相談・協力できる体制を整えている。受診の際も可能な限りご家族と看護師で付添い、ご家族の不安を取り除けるよう努めている。介護職員ができる処置についても看護師からのアドバイス、指示のもと適切におこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された時は、ご家族、地域医療連携室と蜜に連絡をとり治療の方針と今後の見通しや退院後のアドバイスを受けている。入院中も本人のストレスと不安を軽減できるようお見舞いに行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化やターミナルの対応について説明し同意を得ている。重度化した場合は速やかにご家族と相談しかかりつけ医との話し合いをおこなっている。30年度は2名の方の看取りを実施し終末期のあり方をご家族、職員でチームとなり方針を共有し支援した。	二人の看護師がおり、重度化や看取りに対してもホーム独自のマニュアルが整備されている。一人ひとりに合わせた看護ができるよう、利用者、家族、医師などが納得するまで話し合う中で、重度化に向けたケアが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が応急手当普及員の資格を取得し、応急手当や心肺蘇生法の勉強会を施設内でおこなっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防署の協力を得て定期的な避難訓練を実施している。また災害発生時の避難経路や備蓄品等についても防災委員会が主体となって話し合いをおこなっている。また地区の小学生や地域の有識者に避難訓練の様子を見学していただき助言やアドバイスももらっている。	消防署の指導も受けながら、近隣住民の協力を得て、利用者参加、夜間想定など災害への備えに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の性格を把握し言葉かけや人格を尊重しプライバシーに配慮した対応を心がけている。入浴時は脱衣場に仕切りのカーテンを使用し羞恥心にさらさない対応をしている。	ホールでの開放されたコミュニケーションと対照的に、個室でのプライベートな空間も大切にされ、職員もノックして挨拶を交わして入室したり、視線が気になる箇所では、目隠しを工夫するなど、プライバシーが守られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重する為、問いかけでの声かけに努めている。日常の何気ない会話のなかから本人の希望を引き出し実現できるよう柔軟な対応を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調を把握し本人のペースで自由に過ごしていただいているが職員が意向や希望を聞きながらその人らしい日々になるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを尊重し髪型等も本人の希望に沿うよう心がけている。その人らしい身だしなみやおしゃれができるような配慮や声かけをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューは利用者に分かるように掲示しており楽しみを持ってもらえるよう対応している。野菜切りが出来る方には手伝っていただき、食後も食器洗いや食器拭き等できる事は利用者にお願している。	オープンキッチンからは、料理の香りが漂い、美味しそうに盛りつけされた食膳を利用者さんは楽しく召し上がっている。職員は見守りをしっかりしているが、自らもともに食事をすることでアットホームな雰囲気になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を把握するために記録に残し、状態に変化があれば食事形態の変更等を検討しながら栄養バランスの維持に努めている。水分量の少ない方にはゼリーを作って提供したり食事量の少ない方もご家族に嗜好品を聞き提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせた口腔ケア、口腔ケア用品を使用し清潔に努めている。介助が必要な方は職員と一緒に、義歯は夜間洗浄剤に浸け清潔を保持している。分からない事があればかかりつけの歯科医に相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿のパターンを記録に残し、一人ひとりの排尿パターンを把握し時間やタイミングをみて声かけや誘導をして支援している。自尊心を傷つけないように配慮し個人に合わせた援助を心がけている。	排泄パターンは、入居後平均して2週間程度で把握できるという。それぞれに合わせて、排泄がトイレで行われるようさりげない声掛けで誘っている。トイレは清潔で臭いもない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の有無を把握し果物を積極的に摂取したり食物繊維、乳製品を使用する等してトイレでの自然排便を促すように取り組んでいる。酷い便秘の方は薬剤師に相談し、かかりつけ医に報告・相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個別で入浴介助している。入浴の拒否がある時は日にちや時間をずらしたり、声かけや誘い方を工夫し、気持ちよく入浴していただけるよう対応している。また同姓介助を希望される方は出来る限り同姓で介助するよう対応している。	利用者さんはみなさん入浴を好まれるという。体の保清だけでなく、リラックスできる楽しい時間になるよう、職員も心がけており、鼻歌なども聞こえてくる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣を大切にしながら日中は意欲的に、夜間は安心して寝られるよう支援している。寝付けない利用者や幻視から不安を話される方には職員と一緒にお茶を飲んだりテレビを見たりして安心できるよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の協力のもと一人ひとりの薬の目的・副作用についてアドバイスをもらっている。薬剤師との連携を密にとり利用者の状態を共有している。服薬ファイルを使って二重三重のチェックをし服薬事故防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や食事の準備、片付け等、これまでしていた事、できる事は利用者同士助け合いながら、していただき役割をもつことで自信と喜びに繋がるよう支援している。また得意分野でも力を発揮できるよう利用者同士で俳句を発表する場を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩や買い物、ドライブ等に積極的に出かけている。家族の協力を得ながら一時帰宅の支援やお墓参りに行っている。同姓で介助できる時は本人の希望で近くの温泉にも外出した。	駅舎に近く、電車や車、人通りも多い地域であり、毎日の日課として周辺の散歩やドライブなど日常的に外出しており、ホームに閉じこもらない暮らしとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者によっては現金を自己管理することで物盗られの訴えが出て利用同士の関係が悪化することもあるため、入所時にご家族に説明し金銭の管理は事務所でこなしている。本人が欲しい物がある時は都度対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から電話の希望があれば柔軟に対応し、遠方の家族や知人からの電話は本人へ取り次いでいる。年賀状は本人に書いていただき大切な家族へ送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングには季節の花を飾ったり、利用者様と一緒に作った小物や作品を飾り季節感を大切にしている。日中はカーテンを開けリビングから見える山の景色で四季を感じられるようにしている。日常の様子や行事の写真を飾り落ち着く空間作りを心がけている。	木をふんだんに使用したホールは大型テレビやソファが設えられ、利用者さんは自由にくつろげる。窓の景色にも街の喧騒が感じられ、遠景に北山の峰が見える。張り出したキッチンからは、良い香りが漂い、アットホームな雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関に椅子を置いており、日向ぼっこや、うたた寝されている。暖かい日には日の当たる場所でお茶をするようにしている。ホールには椅子やソファを点在させ本人が好きな時に好きな所で休憩できるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前にご家族と話し合い使い慣れた物や愛着のあるものがあれば持参していただき、生活環境の変化による不安を最小限にできるよう努めている。部屋には家族との写真や馴染みのあるものを飾り居心地の良い部屋作りに努めている。	個室は利用者さんごとに個性的であり、プライベートな空間でゆっくりくつろいだり休んだりできる。カーテンや空調なども備えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の動線には手すりが設置してある。ホールにあるトイレは分かりやすいように表記したり目印をつけている。居室入り口には名前を記したり、本人が自分の部屋だと分かりやすい物を飾る等の工夫をし可能な限り自立した生活が送れるよう支援している。		